

日野町におけるがん検診受診率向上のための新たなきっかけづくりとその効果

○山本文穂 坂田敦子 山中和美 吉澤利夫 壁田文 (日野町役場)
黒川勝利 (滋賀県健康づくり財団)

1.はじめに

日野町では、従来、がん検診受診率向上のためのきっかけづくりとして、広報誌や検診日程カレンダーなどを活用した「一斉受診勧奨」と受診券送付時チラシ同封やクーポン券等を発送する「個別受診勧奨」に取り組んできた。今年度は、それらの取り組みに併せ、新たなきっかけづくりとして、「対面勧奨」と「カードによる勧奨」を実施した。今回、その新たなきっかけづくりの効果を検証したので、以下の通り報告する。

2.受診率向上の新たな取り組み

1) 「対面勧奨」

保健センター職員や健康推進員等が地域での健康教室や公民館事業、また、乳幼児健診やその他の検診において、がん検診受診の大切さや受診方法をPRし、予約も併せて行った。

2) 「カードによる勧奨」

がん検診受診の機会や受診方法を明記した「健康のおすそわけカード」を作成し配布した。

3.方法

1) 前年度と今年度(4月~12月)のがん検診受診率の比較を行った。

2) 集団がん検診受診者 1,224 名を対象に調査票を配布した。調査内容は、「検診受診者の基本情報(性別、年代)」「検診を受けようと思ったきっかけ」の2点である。

4.結果

4.1.受診率の変化

平成21年度と平成22年度を比較すると、すべてのがん検診において受診率が向上していた。

4.2.アンケート調査の結果

集団がん検診受診者 685 名から回答を得た(回収率 55.9%)。検診を受けようと思ったきっかけ(複数回答)は、図.1に示す結果となった。

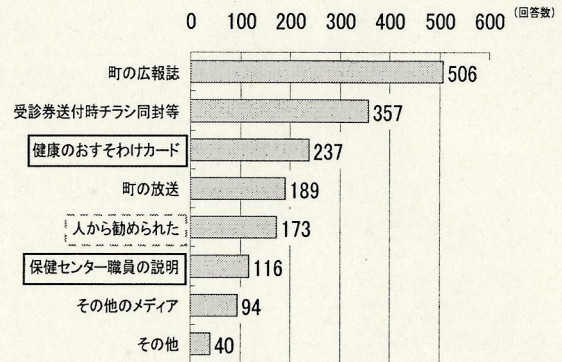


図.1 検診受診のきっかけ (n = 685)

新たな取り組みに関する回答は、以下のとおりであった。

1) 「対面勧奨」(健康教室でのPR等)では、保健センター職員の説明について、116名(16.9%)から受診のきっかけになったとの回答を得た。また、健康推進員からの勧めについて、31名(4.5%)から受診のきっかけになったとの回答を得た。

2) 「カードによる勧奨」では、237名(34.5%)から受診のきっかけになったとの回答を得た。

5.考察

アンケートの結果から、「対面勧奨」と「カードによる勧奨」は、検診受診のきっかけづくりとして一定の効果を持つことが確認できた。

受診率向上につながった理由として、第1に「対面勧奨」や「カードによる勧奨」という新たな取り組みを行ったことで、対象者が、検診受診の大切さを目に留め、耳にする機会が増えたことがあげられる。第2に「対面勧奨」により、これまでの取り組みよりも密度の高い情報提供ができたことがあげられる。これまで重視してこなかった「対面勧奨」や「カードによる勧奨」という取り組みは、今後の受診率向上に寄与する可能性を持つと考えられる。

本調査を継続的に実施し、取り組みの効果について、より詳細な検証を進めていくこととしたい。